



施設パプリカで物理的防除と天敵製剤を組み合わせ 農薬の使用回数を削減しよう！

【1 成果概要】

- (1) 施設パプリカにアザミウマ類の天敵製剤であるスワルスキーカブリダニ剤（商品名：スワルスキー、以下「スワルスキー」）を5月下旬に放飼すると、アザミウマ類による果実被害を抑えることができます。
- (2) また、施設開口部に光反射資材織り込み防虫ネット（商品名：タキイホワイト TW30）及び光反射シート（商品名：デュポン TM タイバック®400WP）を展帳すると、アザミウマ類やタバコガ類の施設内への侵入量が大幅に抑制され、化学合成農薬による防除回数を削減しても、被害果の発生を抑えることができます（図3）。



図1 スワルスキーカブリダニ（体長 約0.3mm）

図2 物理的防除資材を展帳・敷設した施設

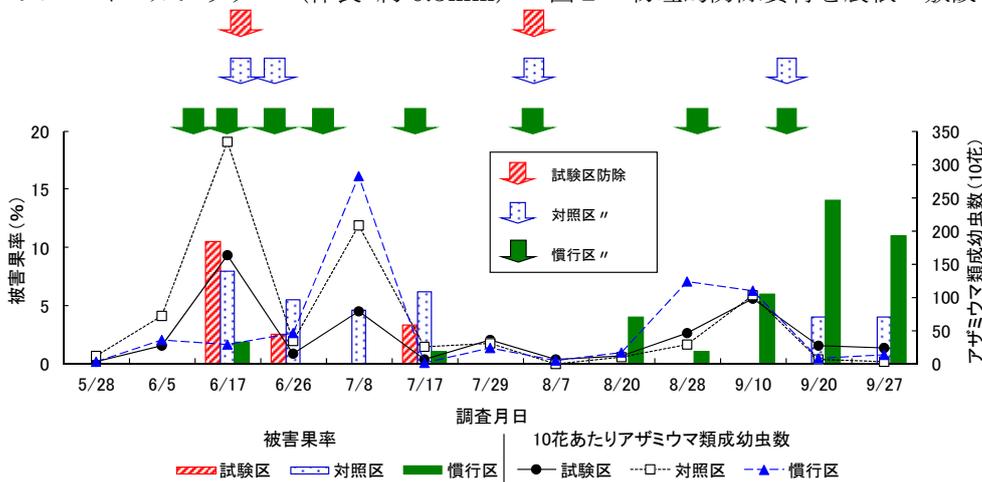


図3 アザミウマ類被害果の発消と花でのアザミウマ類寄生消長（H25 矢巾町現地ほ場）

図3の見方：試験区：施設開口部に光反射資材織り込み防虫ネットを展張、施設脇に光反射シートを敷設
対照区：施設脇に光反射シートを敷設 ※試験区、対照区：スワルスキー放飼
慣行区：物理的防除なし、スワルスキー放飼なし

【2 留意事項】

- (1) パプリカは栽培上花数を制限することから、スワルスキーの増殖が抑制される可能性があります。このため、スワルスキーを有効に活用するためには、できるだけ物理的防除を併用します。